

2023.09.25 シニアクラブ Online 会合報告

秋の彼岸も過ぎてことわざ通りに一気に気温が下がりました。しかし、これも一時的なようで、予報ではこれからも30℃を越す日が続くとのことで、本当の秋はもう少し先になるのでしょう。



この会合では「東海道五十三次」シリーズが続いていますが、上の図に掲げたタイトルの通り、もう一つの街道もの「東海道五十三對」を眺めてみました。 <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E6%B5%B7%E9%81%93%E4%BA%94%E5%8D%81%E4%B8%9E%E5%B0%8D> 参照



江戸時代後半、19世紀になるといくつもの街道ものが出版されました。その中でも「東海道中膝栗毛」は弥次さん、喜多さんの旅道中を書いたもので、滑稽本として多くの庶民に読まれました。

更に、北斎や広重による彩色された街道もの浮世絵が世に出ると、庶民の間には旅ブームが起きました。

旅に出ることのできない人もそのような浮世絵を見て楽しんだとのこと。 「東海道五十三對」には各宿場における故事・伝奇などが記載されており、そこにまつわる人物が描かれています。弥次喜多の二人も引用され、旅先での失敗談などが面白可笑しく描かれています。



【東海道五十三對】日本橋と京を加えて、一部に別版もあって60枚の絵が載っています。一つ一つ見ていくと時間にきりがなく、今回は主に神奈川宿と伊勢の関宿について説明します。

・神奈川宿は「釣りをする女」のタイトルとなっていますが、その絵の上には、この地にある通称「浦島寺」の慶雲寺に伝わる浦島伝説が書かれています。⇒



・鈴鹿峠に近い関宿の説明文の前段には、関のお地蔵様開眼の際に一休和尚が自分の禪を解きそれを地蔵の頭に巻きつけたという故事を述べ、後段では遊女地獄太夫が一休和尚を尊信して信解をうくる、とあります。絵はこの二人が連歌問答を交わす様子を描いています。

一休和尚と地獄太夫については次を参照 <https://youtu.be/LwUkcl1urN8>

☆ 宮田さんから8月に開業したばかりの宇都宮雷都レール試乗の紹介がありました。 【宇都宮ライトレール】 <https://www.miyarail.co.jp/> 参照



宇都宮駅東口を出発地として鬼怒川を渡り隣の芳賀町まで延長 14.6 km を 48 分で結ぶ新交通システムが誕生。30年越しの計画がようやく実現。路線に沿って宇都宮大学キャンパスや大きな工業団地が並び、通勤通学の足として今後に期待。駅東側の街並み発展に寄与するとともに、将来的には JR の線路を越え西側への延伸計画もあるとのこと。

ライトレールとは「軽量軌道交通」で路面電車などを意味します。近年、都市の路面電車は低床式のしゃれたデザインのものが増えており、乗降が容易で運行にも定時性が保たれるため、新しい交通システムとして注目されています。今まで路面電車がなかった宇都宮では全くゼロからの計画スタートで紆余曲折ありながらもようやく開業にこぎつけることができました。

開業間もないこともあり車内は混雑していたとのことですが、今まで渋滞していた道路はその分余裕が出ることでしょう。宇都宮周辺は雷の多い地でライトレールが雷都レールと呼ばれます。

☆ この会合のテーマでは東海道五十三次ものが続いています。まだまだ続きますので飽きずに次回以降もご参加ください。

2023.09.26 JVCKW シニアクラブ事務局長 田代 周